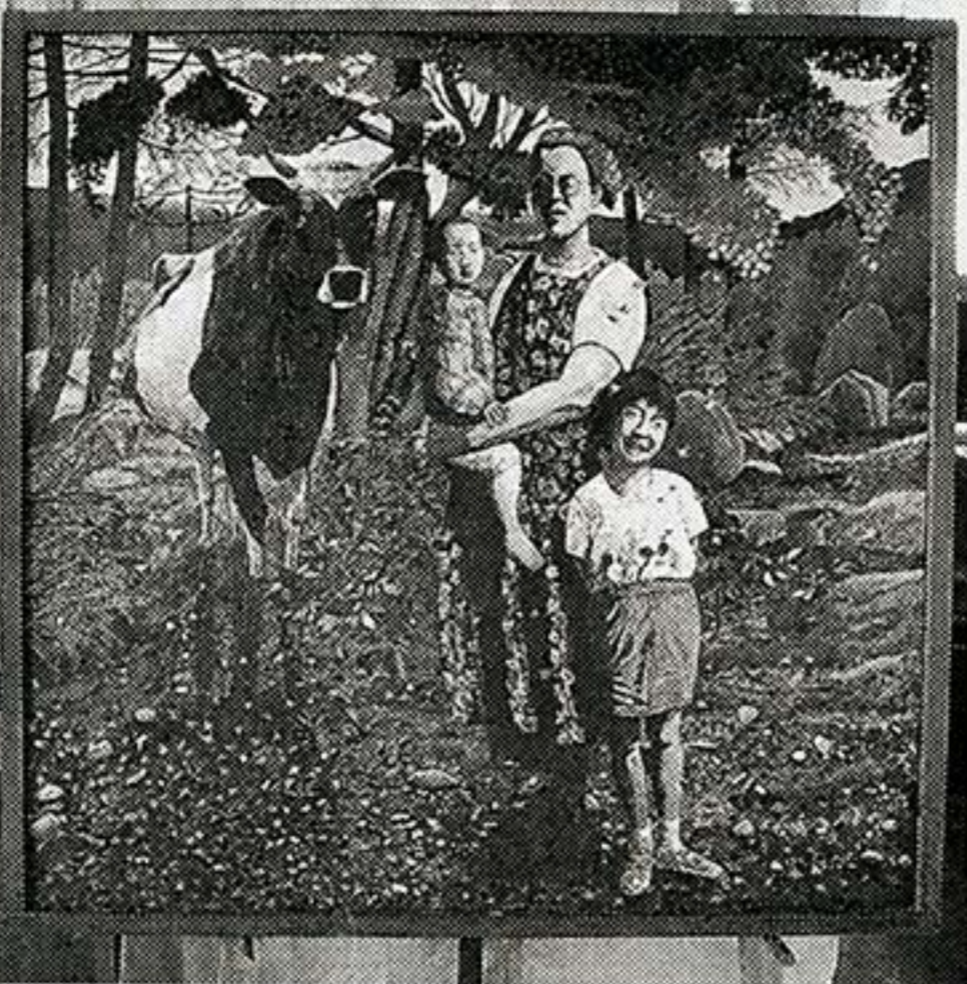


釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□ 上 □

財団法人釧新教育芸術振興基金（平川剛喜理事長）の2003年度（第32回）「釧新郷土芸術賞」の受賞者が決まった。今年は、フランスの画家・ユトリロの影響を受け、描かれた作品は、いずれも高い評価を得ている油彩の阿部修氏、1994年に釧路新人演奏会で奨励教育長賞を受賞し、それ以来、ソロ、アンサンブルなど積極的に挑戦、着実に実績を積みピアノの力石真奈美氏が選ばれた。各受賞者の横顔を紹介する。



家族を描いた作品「流れ続ける水として」と阿部さん

十勝・浦幌町の出身。上京。勤務を終えると、絵に興味を持ったのは中 美術学院やデザインの専学時代、展覧会に入選し 門学校に通い、絵の技術たのがきっかけ。特に授に磨きをかけた。やがて

阿部 修さん(54)

阿寒町中徹別

業で見たユトリロの薄汚 仕事も忙しくなり、責任れた「ユトリロの白」に の重みも増した。仕事と感銘を受けた。当時は浜 絵の選択を迫られる中

油彩

辺の壊れた船などを描き、以来、どこかうら寂しさを伝える画風は今も変わらない。 30歳で初めての個展を開催。特に師事して

19歳の時、就職のため「絵はうまいが、うまい

求める日々…。40歳でインド各地を放浪。違う視点で日本を見つめた結

「ユトリロの白」に感銘 インド放浪し、故郷北海道へ

だけ」と指摘され、大きな衝撃を受けた。何が足りないのか。それを探し、道内を渡り歩き、1993年に現住の阿寒町へ。

「画家ではなく絵描きでいたい」との思いから、作品展への出展はほとんどないが、それでも80年代に神奈川県展で入選、98年には中札内村で開催された「北の大地ビエンナーレ」で、「仔牛たちの雪どけ」が受賞候補にノミネート。2000年の同展覧会で、「鹿が見ていた」で入選を果たした。

今回の受賞に「こつこつと絵を描きながら、ただ生活している変な絵描きに興味を持ってくれた人がいたことがうれしい。この生き方が間違っていないな」と背中を押されたような気がする。これからもただとどく筆を進めながら作品を制作したい」と意を新たにしている。

(高倉啓介)